

育もう未来に輝く大輪の花

# 若い芽のつどい

子どもたちが日ごろの学習や練習の成果を披露する「若い芽のつどい」が1月27日、観月台文化センターで開かれ、「第14回若い芽のコンサート」と「第4回『ショートショート』創作文発表会」が行われました。



1 2 3 練習の成果を披露する子どもら 4 真剣な表情で楽器を奏でます 5 巧みな指さばきを披露 6 愛らしい踊りでも会場を魅了

## 伝統音楽を次世代へ「若い芽のコンサート」

国見古典鑑賞会主催の「若い芽のコンサート」は、日本の伝統音楽を愛する子どもたちが和楽器演奏を発表する場として毎年開かれ、今年で14回目を迎えました。

コンサートには、子ども和楽器体験教室で、箏や三味線の練習に励んできた小学生が出演し、指導ボランティアのみなさんらとともに練習の成果を披露。教室生らは、箏や三味線を巧みに操りながら、踊りなどを含む全18曲を演奏し、会場に響き渡る雅な音色で観客を魅了しました。

第4回『ショートショート』創作文発表会

## 大賞

### 名物駅弁の始まり

村木 知温

「父ちゃん、今日も大漁だね。」  
ほくはたける。小学校が休みの日は、いつも父ちゃんの漁に連れて行ってもらう。

ほくの家は代々漁師の家だ。じいちゃん、ほくが二才の時に死んでしまったが、母ちゃん

は「町一番の漁師だったのが、じいちゃんだよ」とよく話してくれた。この話ではほくは、小さい頃から、自然と自分も漁師になりたいと思っていた。

ある日、父ちゃんが、真面目な顔でこんなことを言った。  
「漁師は、船がちゃんぼつして死んでしまったり、大けがをしてしまったり危険な仕事なんだよ。」

ほくは、こわくなり、不安になってしまった。その様子を見て、父ちゃんは、おだやかな顔になって

「だから、海に出たら油断してはいけません。さあ、これから修行がんばれ。」

「ご飯を食べて元気を出そう。」

今日のご飯はいわしですだよ。」  
と言った。父ちゃんは、少しうれしそうだった。すると父ちゃん

「酔の味を強くしたら？」  
と言った。そこでたけるは、思いついた。

「いわしで、弁当をつくらう。」  
それには、理由があったのだ。この町には、駅弁と呼べる物がなく、駅弁コンテストが今年から始まったからである。たける

は、父ちゃんと母ちゃんに「駅弁コンテストに出そう。」  
と言った。母ちゃんは、少しおどろいたが、うなずいた。

「たけるは、もつといわしを取ってきてくれるかい。お母ちゃん

は、どんな駅弁にするか考えるから。」  
と言った。父ちゃんは、何も言わなかったが、いやそうにはしていなかった。

そして実際に作って見たが、すしがくずれたり、くさみが気になつたりしてしまった。その時、父ちゃんが、

「いわしのネタがくずれないようにのりを巻いてみたら。」  
と言った。たけるたちは、そのアドバイスをもとに作って見たらくずれなかった。でも、さっぱりとした味にはならなかった。そのほかに、しそやかんぴょう、大根のうす切りを試してみ



## 個性あふれる作品が集う『ショートショート』創作文発表会

国見小6年生児童は、国語の授業で短編物語『ショートショート』の創作に挑戦しました。『ショートショート』創作文発表会は、子どもたちの創作意欲や表現力・想像力を養うとともに、読書活動推進の一環として取り組んでいるもので、今年で4回目を迎えます。

子どもたちは、4枚の写真から自由にテーマを選び、想像を膨らませて物語を創作。今年は65編の個性

豊かな作品が寄せられ、事前審査で入賞10作品、佳作8作品が選ばれました。発表会では、入賞者10人が作品を朗読発表し、当日審査で大賞に村木知温さんの『名物駅弁の始まり』が選ばれました。

入賞者は次のとおりです。(敬称略)

- ▼大賞 村木知温
- ▼準賞 遠藤真奈、榊優来
- ▼入賞 佐藤頼、阿部心咲、佐藤圭将、八島加奈、高橋岳斗、赤井畑有美、加藤沙菜



▲入賞作品を朗読発表する子どもたち

いよいよこの弁当を出す時がきた。今日は、二十三個の弁当がコンテストに出されていた。例えば、ほたていくら丼やコロッケ弁当などがあった。そしてたけるがライバルだと思ったのは、カニの身がのつたちらしずだった。

そして、しん查が始まった。しん查は、会場のお客さんが試食して、良いと思った弁当に投票する。

しん查が終わわり、結果が出た。結果は一票差で、たけるたちの弁当が優勝した。たけるは、「みんなに父ちゃんの気持ち伝わったからだよ。」と、父ちゃんに言った。

それから、いわしずし弁当の販売を開始した。お客さんたちは、駅弁コンテストの優勝の味を知りたいと大勢やってきた。やがて、この弁当は、新聞やテレビにも出るようになった。

父ちゃんは、漁に出ることができなくなったが、たけるに「とても生きがいを感じたよ。」と話した。

これが名物駅弁「父ちゃんいわし元気ずし」の始まりだ。